

## 7 明倫短期大学と小学校の連携による総合学習の効果 —児童と保護者と先生が共に学ぶ教育プログラムの策定と実践—

○木暮ミカ, 本間和代, 計良倫子  
明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 総合的な学習の時間, プリシード・プロシードモデル, 学校歯科保健教育, 齲蝕・歯肉炎予防プログラム

### はじめに

今回, 新潟市立真砂小学校より, 3年生の「総合的な学習の時間」で歯の健康について学んでいかせたいとのことで協力依頼があり, 「よい歯にしようプロジェクト」と銘打ち, 学習企画段階から参画し, 平成16年より著者が真砂小学校の学校歯科医に就任したことを契機に実施している, プリシード・プロシードモデルに基づいた積極的な齲蝕・歯肉炎予防プログラム<sup>1,3)</sup>の一部に組み込み, 3学年における齲蝕未処置歯数, 歯垢, 歯肉の状態改善を目指した. 本報ではこのプログラムの内容とその展開および予防・改善効果について検討した.

### 対象および方法

対象 : 新潟市立真砂小学校3年生2クラス67名 (男子34名, 女子33名)

期間 : 平成25年6月から11月

方法 : 平成16年から実施しているプリシード・プロシードモデルに基づいた指導重視型プログラムと, 児童が自ら歯科に関する課題を見つけ, あくまでも自己解決していくよう周囲がサポートする援助重視型プログラムを結合させ, 「総合的な学習の時間」において実施した. 教育効果はプログラム実施前後の齲蝕未処置歯数, 歯垢の状態, 歯肉の状態から評価した.

### 結果および考察

全ての項目においてプログラム実施前後で減少傾向を示し ( $p < 0.001$ ), 改善がみられた. また, 学習課題のテーマにブラッシング方法を選択した児童は歯垢, 歯肉の状態の改善傾向が顕著に見られたことより, 齲蝕・歯肉炎の改善と維持は, ブラッシングの自発的な学習とより強い関連性が示唆された.

### まとめ

学童期の齲蝕・歯肉炎予防プログラムについて, 指導重視型プログラムと援助重視型プログラムを結合させ, 「総合的な学習の時間」において実施したところ, 次の事が明らかになった.

1. 従来の指導重視型プログラムだけではなく, 児童の知的好奇心から生まれる自発的な学習行動を支援する援助重視型プログラムを結合させたことにより, 齲蝕未処置歯数, 歯垢の状態, 歯肉の状態は有意に改善傾向を示した.
2. 齲蝕・歯肉予防は, 学習援助型による児童本人の行動変容と自学による知識の獲得の方が, 指導型より有効であることが示唆された.

### 参考文献

- 1) 木暮ミカ, 本間和代, 他 : 学校歯科保健におけるプリシード・プロシードモデルを活用した齲蝕・歯肉炎予防事業の成果. 明倫短期大学紀要 16 (1) : 47-53, 2013
- 2) 小野真奈美, 本間和代, 木暮ミカ, 他 : 小学生の朝食・間食の摂取状況および肥満児童等の実態—プリシード・プロシードモデルを応用した行動・環境診断—. 明倫短期大学紀要 16 (1) : 58-59, 2013